

私たちのいけばな教室

作成者：泉大津市茶華道連合会 瀬良垣 正弘

- 対象者・人数：小学生20～30名
- 所要時間：小学校は放課後「約45分」
- 指導者・アシスタント人数：指導者1名・アシスタント3～4名
- 実施場所：学校、幼稚園



■ 資材

- ・花ハサミ（クラフトハサミ）50丁 連合会準備
 - ・花入れ
 - ・花留め（針金や吸水性スポンジなど）※学校側で準備
 - ・新聞紙、防水敷物
 - ・水切り用ボウル 又はバケツなど
- ※水切りとは、ボウルやバケツなどの中に水を入れて、水中で茎の根元をハサミで切り落とすことです。



クラフトハサミ



花びんなどの花器

■ 花材

- ・春 チューリップ・ガーベラ・カーネーション・スイートピー など
- ・夏 ユリ・カラー・ヒマワリ など
- ・秋 コスモス・リンドウ・キク・ススキ など
- ・冬 スイセン・センリョウ・ツバキ・マツ など



チューリップ



スイートピー



ユリ



コスモス

【指導内容と目的】

- ・いけばなに慣れ、親しんでもらう。
- ・実生活で生かしてほしい感性と技術を身につける。
- ・部屋を飾り、客をもてなす方法を学んでほしい。
- ・気持ちを花で表現してほしい。
- ・情操教育の一環としていけばな、茶道を取り入れたい（泉大津市神谷市長の思い）など。

※小学校では放課後の美化委員を対象に実施している。
幼稚園は、授業の一環として取り組んでいる。

【対象者への配慮】

★ 指導のコツ・ポイント

生ける人の自主性を生かしてください。どんな気持ちで生けたかなど聞いてみるのも必要ではないでしょうか。花はそれ単独で美しいものです。それをいろいろな花を組み合わせると一つの作品を作りますが、シンプルで清楚な作品もあります。飾る場所で適材適所ではないかと思えます。作品を並べて自分の作品と他者の作品を比較して鑑賞・批評するのも勉強になるのではないのでしょうか。

★ 礼儀作法などがあればどう伝えるか。

- ・花屑や水がこぼれる事もありますので作業台の上に防水敷物を用意する方がいいでしょう。また長い屑は短く切ってゴミ袋に入れてください。長い屑はゴミ袋を破ります。後片づけをきっちりさせる事。
- ・道具などの扱い方も、気持ち良く花を生ける為には大切な事と伝える。

★ こどもにどのように生け花の楽しさをつたえているか

- ・初めて体験する子どもも多いので、講師がその場で手本を作り後は自由に生けてもらう。自分たちで作ったという満足感を味わってもらうことです。良いところをほめることも大切。

① 事前の準備

日時、授業時間

いけばな授業の希望校年1回（希望が多いので教育委員会で選定）

小学校は放課後「45分」、幼稚園は午前中「45分」

時間厳守のため前準備が必要である。人数分の花材を仕訳してセットしておく。

連合会は年間計画に沿って日程を調整して日時・担当講師を月例会議で決める。

花材は市が手配

花卉市場組合より支給された材料・切り花が多い・当日でないと花の種類がわからない。

花材の内容を見て、指導者が水きり・水揚げをしておく。

- ・花器は前もって学校や幼稚園手配・準備された花器を見て、花留めを工夫する。簡単な金網を切ったものを花器の中に沈めて花留めとするか、吸水性スポンジなどを使用する。剣山は危険防止のため使用していない。
- ・幼稚園ではペットボトルや牛乳パックなどで自作のカラフルな花びんを使用することもある。
- ・花バサミは、茶華道連合会で50丁準備する。
子ども達には、花バサミは扱いにくいので、クラフトハサミなどを準備している。
- ・準備が整ったら担任の先生の誘導によって、生徒たちが入室し、各花材の前についてもらう。生け込みまでハサミは持たせない。

ハサミの取扱いについて

ハサミの扱い方を子ども達に伝え、十分注意を促す。

ハサミは枝や植物を切る物で、人に向けたり、落としたりすると大変危険。

- ★ ハサミを持って歩いてはいけない、机の上で植物を切るときにだけ持つ。
- ★ 切り終えて、机の上に戻す時も丁寧におく。
- ★ 人に渡したりするときは刃の先を向けてはいけない。
- ★ 道具はとても大切な物。生け終えたら、濡れたままにせず水や汚れを拭き取ること。
*ハサミの数は必ず確認しておく。

水きり・水あげについて

- ・水が腐らないように、水中に葉付いた枝を入れない。
- ・花に十分水を吸水させることで切り花を長持ちさせる。
- ・井戸水など、水の温度も冷たい方が長持ちする。その他花を長持ちさせる商品もありますが必要以外原則として使用しない。
- ・花の足元を水中に入れ水の中で茎を切ることを水切りと言います。水切りは毛細管現象で花が水を吸い上げることで長持ちします。
- ・花の種類によっては足元をガスコンロなどで焼いたりして水に浸けることも。花が焼けないように濡れ新聞で焼く足元以外を包む。
(火を使用する際は、大変危険なので大人が行うこと)
- ・水切りを済ませた後、水があがりにくい植物や元気がない場合には、新聞にくるみ、深水につけておく。他に、切り口を叩いて潰したり、砕いたりして、吸収力を上げる場合もあります。
- ・水あげは準備時間内に済ませて、花材を人数分に仕分けてしておく。

② 指導計画・スケジュール(案)

校長先生挨拶
指導者の紹介

- ・花を扱うのも初めての子どもたちなので、花を扱う基本だけを教える。
- ・花入れ（花瓶・壺など）は学校準備のものを使用する。
- ・準備された花材を前もって割り当てておく。（連合会指導員）
- ・花の名前と扱いを教える。（水きり・葉落としなど）
- ・花の長さを教える。（花入れに合った長さ・花・色の配置）
- ・短時間なので先生の活けた見本花を見て、後は講師が助言しながら自由に楽しく生けてもらう。（花材の触感や、香りなども感じて貰いながら）
- ・活け上がり次第、テーブルに並べて皆で鑑賞する。
- ・後片付けをする。
- ・最後の挨拶をして子ども達退室。

※出来上がったいけばなの作品は、水温が上がるような日なたには置かないこと。
花を長く観賞するためには、水を清潔に保つことが大切。



1. 会場の準備



2. 床にはブルーシートを敷く。



3. 花の名前やいけ方の説明をきく。



4. 自由にイメージを形にしていく。



5. 完成したいけばなの作品

■ 小学校 いけばな教室



■ いけばなの作品

